

設備女子会アンケート

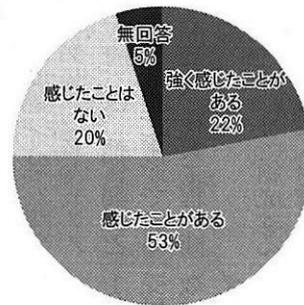
建築設備技術者協会の設備女子会は、設備女子の働き方に関するアンケート結果を公表した。仕事と家庭の両立については全体の75%が不安を感じ、特に時間的な制約が子どもの有無を問わず大きな負担となっている現状が明らかになった。アンケートは設備女子会会員336人を対象に4月に実施したもので、110件の回答を得た。

仕事と家庭を両立する上での不安の理由として39%が「勤務時間外に対応せざるを得ない業務がある」と回答したほか、子どものいる家庭の半数が「病児の預け先がない」ことを挙げた。そのため全体の50%が「担当者がいなくても仕事を代替できる体制づくり」と「短時間での質の高い仕事に対する評価」を要望している。

両立のため活用したい支援体制については、48%が「時間給・半休」、43%が「フレックスタイム」を挙げた。一方で実際の残業対策は「上司の声がけ」「残業禁止日の設定」が多く、求める労働環境と支援のギャップが今後の課題と

仕事と家庭の両立75%が不安

仕事と家庭の両立に不安を感じる人の割合



なりそうだ。また、70%以上が両立に必要な条件を「上司・職場の理解」「配偶者のサポート」と回答している。

昇進については半数以上が高い意欲を示す一方で、60%の回答者が「ロールモデルとなる人がいない」と指摘。前例がないために家庭と仕事を両立する将来像が描けずにいることを浮き彫りにしている。

13日に開いた会見で設備女子会の徳弘洋子会長は「若い世代を受け入れるためには業界は合理的な生産体制であるべきだ。働きやすい職場づくりは女性のためだけにやるのではなく、業界全体に貢献するものとなる」と語った。